

「北白川だより」 学校評価アンケート臨時号

平成31年3月14日
京都市立北白川小学校
校長 松本 和文

平成30年度の学校教育目標
教育活動を通して自ら学びに向かう力を育み、
身に付けさせる確かな北白川教育
「学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子」
～できるからする。できないからしないではなく、するからできるようになる。～

平成30年度のめざす子ども像
なかよく
元気に
学べる子



平成30年度も間もなく修了式を迎えます。保護者の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申しあげます。
また、平素より本校教育活動の推進にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
第2回の学校評価アンケートの集計ができましたので、結果の概要についてお知らせ致します。

表面には<学習面>、裏面には<生活面>のアンケート結果の数値及びアンケートから見えてくる課題や成果についての考察を載せてています。表のAは「よくできている」Bは「だいたいできている」Cは「あまりできていない」Dは「できていない」を示しています。

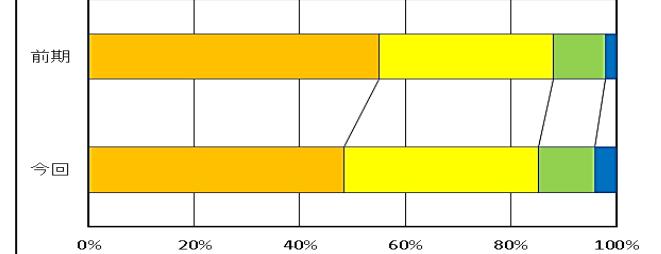
平成30年度 後期 学校評価アンケート<学習面>

児童		A	B	C	D	保護者		A	B	C	D	教職員		A	B	C	D
じゅぎょうがわかりやすく、たのしい。	前期	55.1%	35.2%	7.0%	2.8%	我が子は、授業がわかりやすく、楽しいと言っている。	前期	29.6%	57.9%	11.5%	1.0%	わかりやすく楽しい授業を実践している。	前期	13.4%	86.6%	0.0%	0.0%
	今回	47.6%	39.8%	8.5%	4.1%		今回	26.3%	59.5%	12.2%	2.0%		今回	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%
じゅぎょうちゅうすすんではっぴょうしている。	前期	39.7%	32.1%	22.6%	5.6%	我が子は、意欲的に学習に取り組んでいる。	前期	29.4%	56.2%	13.4%	1.0%	意欲的に学習に取り組むことができるように工夫している。	前期	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%
	今回	32.9%	34.2%	25.4%	7.5%		今回	28.0%	57.9%	13.2%	0.9%		今回	35.3%	64.7%	0.0%	0.0%
けいさんやかんじのちからがみについている。	前期	55.1%	33.1%	9.8%	2.1%	我が子には、読む・書く・計算するといった基礎的・基本的な学力が身についている。	前期	32.7%	55.2%	11.1%	1.0%	読む・書く・計算するといった基礎的・基本的な学力が身につくように取り組んでいる。	前期	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	今回	48.3%	36.9%	10.7%	4.1%		今回	31.9%	56.6%	10.2%	1.3%		今回	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%
いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	前期	60.6%	25.1%	11.5%	2.8%	我が家では、宿題ができたかを聞いたり、確認したりしている。	前期	48.2%	46.6%	4.6%	0.7%	家庭学習の習慣が定着するように働きかけている。	前期	28.6%	71.4%	0.0%	0.0%
	今回	53.8%	28.6%	12.6%	5.0%		今回	45.5%	45.4%	8.6%	0.5%		今回	46.2%	53.8%	0.0%	0.0%
ほんをよくよんでいる。	前期	53.7%	27.2%	14.6%	4.5%	我が家では、本を読むことができ環境を整えている。	前期	31.0%	42.5%	25.5%	1.0%	読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	前期	33.4%	66.6%	0.0%	0.0%
	今回	50.0%	28.3%	15.7%	6.0%		今回	34.2%	40.2%	23.0%	2.6%		今回	23.5%	76.5%	0.0%	0.0%
じぶんからすすんでうんどうにしたしうとしている。	前期	55.7%	23.0%	16.4%	4.9%	我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	前期	36.6%	39.5%	22.5%	1.3%	進んで運動できる工夫を考え、実践している。	前期	21.5%	71.4%	7.1%	0.0%
	今回	48.3%	28.9%	15.0%	7.8%		今回	29.3%	41.1%	28.3%	1.3%		今回	6.3%	93.7%	0.0%	0.0%

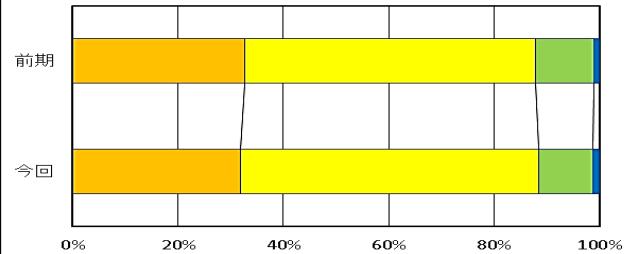
～自由記述欄より【学習面】～

- 算数の学習などで問題によっては複数の解答が可能とよめるものがありますが、あらかじめ想定された一つの解答以外が不正解となっていることが何度かあり、気になりました。想定された一つの答え以外の答え方や考え方にも柔軟に寄り添っていただければ有難いと思います。
- 宿題以外の家庭学習をもっと自主的にさせるにはどうしたらいいか、みなさんの意見が聞きたい。
- 学校が楽しいようです。読む・書く・計算するといった基礎学力も身に付き、本人も親も喜んでいます。
- 担任の先生にわからないところの学習のフォローをしていただけて学習意欲が上がってきています。
- 宿題は時間を決めてやっているので、自主的な勉強も取り組んでほしいです。

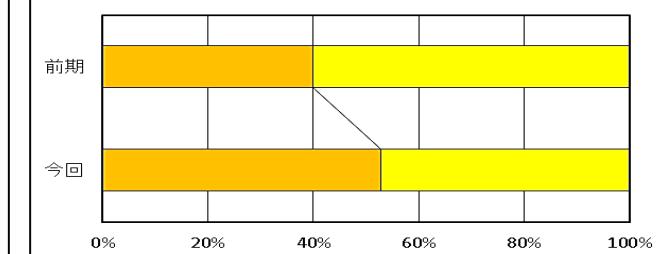
けいさんやかんじのちからがみについている



我が子には、読む・書く・計算するといった基礎的・基本的な学力が身についている



読む・書く・計算するといった基礎的・基本的な学力が身につくように取り組んでいる



設問「計算や漢字の力が身に付いている」について、保護者アンケートからは「よくできている・できている」が前期のアンケートと比較して微増、教職員アンケートからは「よくできている」が12.9%の増加となっており、児童が日々努力し、学力の定着が見られると考えているのに対し、児童は85.2%が「力が身に付いている」と考えているものの、その割合は前期に比べて減少しています。

どの学年も4月から学習が進むにしたがって学習する内容も多く、難しくなってくるので、「力が身に付いていない」と感じてしまうのかもしれません。学校ではどの学年の児童も落ち着いて熱心に学習に取り組んでいますが、自ら課題を見つけて主体的に学習する点において課題が見られます。「自分がやるべきこと・やりたいこと（必然性・関心・意欲）」を自ら見つけ、「やったこと・できるようになったこと実感すること（達成感・自己肯定感）」が味わえるような授業の工夫をこれからも重ねていきたいと考えます。併せて、基礎・基本の学習が身に付くように反復学習や個別学習などを行い、ご家庭との連携も取りながら、より一層学習の定着を図っていきたいと思います。また、このことは「授業が楽しいと思えること」「授業中進んで発表すること」「家で自分から学習すること」にもつながる大切なことだと考えています。

平成30年度 後期 学校評価アンケート<生活面>

児童		A	B	C	D	保護者		A	B	C	D	教職員		A	B	C	D
こうないであったひとにたいして、じぶんからすすんであいさつをしている。	前期	54.4%	38.0%	6.6%	1.0%	我が家では、進んで挨拶するように声かけをしている。	前期	38.9%	57.8%	3.3%	0.0%	校内であった人に対して、進んで挨拶ができるように働きかけている。	前期	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	今回	51.1%	39.8%	8.2%	0.9%		今回	39.8%	53.6%	6.6%	0.0%		今回	72.2%	27.8%	0.0%	0.0%
ともだちとトラブルになったときに、おちついてかんがえ、かいけつすることができる。	前期	34.1%	42.2%	20.6%	3.1%	我が家では、友達とトラブルになったときに、落ち着いて考え、解決することができるよう話し合う場を設けている。	前期	20.9%	71.9%	6.9%	0.3%	友達とトラブルになった時に落ち着いて考え、解決できるよう、道徳(どう解く)等の時間を大切にし、学び合う場を設けている。	前期	53.4%	46.6%	0.0%	0.0%
	今回	33.3%	46.2%	17.0%	3.5%		今回	25.7%	66.4%	7.9%	0.0%		今回	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
こまつたことは、せんせいやかぞくにそだんしている。	前期	50.2%	28.6%	16.4%	4.9%	我が家では、子どもの話をしっかり聴くようにしている。	前期	23.2%	67.0%	9.8%	0.0%	子ども達と会話する機会を積極的に設け、話をしっかりと聴くようにしている。	前期	53.4%	46.6%	0.0%	0.0%
	今回	49.1%	29.9%	15.4%	5.6%		今回	21.7%	66.8%	11.5%	0.0%		今回	61.1%	38.9%	0.0%	0.0%
じかんにきをつけてこうどうしている。	前期	51.9%	37.3%	9.1%	1.7%	我が家では、我が子が時間を守つて行動できるように働きかけている。	前期	24.8%	64.7%	10.1%	0.3%	子ども達が時間を意識した行動ができるように働きかけている。	前期	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%
	今回	41.8%	43.7%	10.7%	3.8%		今回	26.6%	58.2%	14.5%	0.7%		今回	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
そうじやせいりせいとんをきちんとしている。	前期	47.4%	37.3%	13.2%	2.1%	我が家では、我が子に自分から進んで掃除や身の回りの整理整頓をするように働きかけている。	前期	17.6%	53.6%	27.1%	1.6%	自分から進んで掃除や身の回りの整理整頓をするように働きかけ、自らも実践している。	前期	33.4%	66.6%	0.0%	0.0%
	今回	47.3%	39.7%	9.5%	3.5%		今回	21.4%	48.0%	30.3%	0.3%		今回	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
じぶんのよいところがいえる。	前期	46.0%	24.7%	22.0%	7.3%	我が家では、子どものよさを認め、ほめる努力をしている。	前期	31.0%	58.2%	10.5%	0.3%	子どものよさを認め、ほめている。	前期	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%
	今回	37.0%	34.2%	18.5%	10.3%		今回	30.6%	58.6%	10.5%	0.3%		今回	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%

～自由記述欄より【生活面】～

- 「進んで挨拶すること」について子どもに声掛けはあまりしていませんが、親が進んで挨拶する姿を見せられるように、自分自身がまず挨拶するようにしています。
- 以前は自ら進んで挨拶をしなかったのですが、最近では目を見て自分から声を出して挨拶することができていると思います。一方、お手伝いはこちらから言わないと動いてくれません。どうすれば自分からできるのか、話し合いをして取り組んでいきたいです。
- 友達とのトラブルは今のところないと思っていますが、本人から言い出さない限り認識は難しい。先生が気づかれたときは親へ教えていただきたいです。
- 子どもの良いところを誉め、自己肯定感をもてるようにしたいが、親としては指導しなければいけないところが気になり、叱ってしまうことが多くなっています。
- 物事に対する意欲が少なめなので、できるだけ積極性を重視して「やりたいこと」をすくい上げるようにしています。
- 子ども達がTVやSNS・動画などで大人の情報に知らずに接する時代で、善悪の判断のつかないままに真似るので、学校でも家庭でも善い悪いをしっかりと教えていきたいです。

保護者の皆様からいただきましたご意見・ご感想については教職員で共通理解を図るとともに、3月8日の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきました。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

- 「校内であった人に対して自分から進んで挨拶をしている」については、児童・保護者・教職員ともに「よくできている・できている」が前期も今回も9割以上となりました。年度当初は大人の方から声をかけることも多かったのですが、次第に児童の方から先に声をかけることが増えてきました。「おはようございます」だけではなく、「いただきます・ごちそうさま」「ありがとうございます」など、その場に応じた挨拶ができる児童が多くなっていることは大変うれしいことです。学校と家庭・地域の皆様の声掛けが実を結んだのではないかと思っています。
- 「友達とトラブルになった時に落ち着いて考え、解決することができる」「困ったことは先生や家族に相談している」の項目では、児童のABの評価で0.2~3.2%増加しました。学級の友達や担任の先生に慣れたことも要因の一つかもしれません、話し合って解決したり、解決への糸口を見つけたりした経験を積むことで「落ち着いて考え、相手と話し合うこと」「誰かに相談すること」のよさを理解しているのではないかと思います。ただ、どちらも20.5~21.0%の児童がCDの評価をしています。「困ったことを誰かに相談できない」「友達とのトラブルを解決できない」と思っている児童がいることを重く受け止め、より一人一人を丁寧に見て対応していく必要があると感じました。
- 「時間に気をつけて行動している」「掃除や整理整頓をきちんとしている」については内容や評価者によってばらつきがみられました。「時間」については、ABの評価において、児童(3.7%減少)・保護者(4.7%減少)・教職員(Aの評価が6.7%増加)となりました。学校ではチャイムを意識して行動できるのですが、ご家庭ではなかなか難しい部分があるかもしれません。プライベートな時間とパブリックな時間の区別をつけ、自分と周りの人にとってどのような行動が必要なのかについて、ご家庭でもお話しくださると幸いです。また、「整理整頓」については、児童(2.3%増加)・保護者(1.8%減少)・教職員(Aの評価が1.1%増加)となりました。今年度は長寿命化改修工事が行われていたこともあり、掃除の担当場所や掃除の方法が度々変わることがありましたが、熱心に清掃に取り組む児童の姿が多くみられました。きれいになった校舎を美しく維持しようと児童・教職員が力を合わせて取り組んだ結果だと思います。
- 「自分のよいところが言える」では、児童のABの評価が0.5%の微増となりました。しかし、保護者(89.2%)・教職員(94.5%)が「児童のよさを認める努力をしたり、ほめたりしている」と答えているにもかかわらず、3割近くの児童がCDの評価をしています。自己肯定感や自己有用感を高めるためには、ほめることはもちろん、失敗や困難を乗り越える時に励まし、支える(見守る)ことも大切だと考えます。周りの大人が失敗しないように手を貸してしまうことで「誰かに助けてもらわないとできない自分」を認知してしまうことにつながります。児童は一人一人ものの見方も感じ方も異なるので、関わり方は千差万別ですが、常に児童に寄り添い、その健やかな成長を見守りつつ対応していきたいと考えています。